

幕末の栄一翁から 令和の時代へ

4月9日、渋沢栄一翁が新一万円札の肖像になると発表されたことに伴い、渋沢栄一記念館をはじめ関連施設への来館者が増加しており、今後、観光資源としても、ますます重要なものとなってきます。このことを契機とした今後の渋沢栄一記念館やまちづくりについては、6月定例会でも多くの議員から一般質問がありましたのでご紹介します。

過去最高の来館者数

Q 渋沢栄一記念館の来館者数は、平成30年度の総来館者数は、記念館は16036人、中の家は12066人である。4月9日から6月2日までの約8週間で記念館は24259人、中の家は15664人であり、これは富岡製糸場が世界遺産となった平成26年度に記念館の過去最高来館者数を記録した23428人を超えている。

渋沢栄一記念館を単独館に

Q 渋沢栄一記念館を単独館にする考えはあるのか。

A 渋沢栄一記念館は、来館者数の増加に伴い、平成27年度から1つの課として設置し、専任の市職員を配置することで渋沢栄一顕彰事業に重点を置いた施策や事業を実施している。建物は八基公民館と併設であるが、これまでも2階通路を活用してビデオブースや休憩スペースを設置するなど、既存施設を有効に活用しながら、多くの見学者へ快適なスペースを創出できるよう、八基公民館とも連携を図りながら、様々な改善に努めて運営している。

渋沢栄一翁の生誕の地にある八基公民館に渋沢栄一記念館を併設していることで、これまでも地域ぐるみで、様々な事業実施や情報発信がなされており、地域が一体となって顕彰するという大きな役割が果たされていることから、分けて運営することは予定していない。



渋沢栄一記念館 北側より撮影



【侍姿の栄一翁】



【洋装の栄一翁】

画・渋沢 敦雄氏

栄一翁の教えを胸に

幕末の時代、深谷市に生まれた渋沢栄一翁は「道徳経済合一」を生涯を通して実践しました。これは、企業の目的が利潤の追求にあるとしても、その根底には道徳が必要であり、国ないしは人類全体の繁栄に対して責任を持たなければならないという意味のものです。

令和の時代を迎えた今、栄一翁は一万円札の肖像に決定するなど、再び脚光を浴びています。生誕の地・深谷市としても、この追い風に乗り、栄一翁を観光資源として活用し、新たな事業を展開していく必要があります。

深谷市議会では、今後も栄一翁の教えを継承しつつ、「元氣と笑顔の生産地 ふかや」の実現に向けて、行政のチエック機能としての役割を果たしてまいります。

道徳経済合一説



第一自分の期念が真正の国家の隆盛を望むならば、国を富ますといふことを努めなければならぬ。国を富ますには科学を進めて商工業の活動に依らねばならぬ。商工業に依るには如何しても合本組織が必要である。而して合本組織を以て会社を経営するには、完全にして鞏固なる道理に依らねばならぬ。既に道理に依るとすれば其標準を何に帰するか、之は孔子の遺訓を奉じて論語に依るの外はない。故に不肖ながら私は論語を以て事業を經營して見様、従来論語を講ずる学者が仁義道徳と生産殖利とを別物にしたのは誤謬である。必ず一緒になし得られるものである。

(渋沢栄一伝記資料より一部抜粋)

観光資源としての活用方法

Q 渋沢栄一翁関連、アウトレットと大きな観光資源をどう考えるか。

A この度の、渋沢栄一翁の新一万円札デザイン決定を受け、渋沢栄一翁の生誕地の各施設や誠之堂・清風亭といった渋沢栄一翁関連施設への観光客が増えている。この好機を逃さないよう、本市の知名度をさらに高めていくことが重要だと考えている。また、アウトレットモールを核とした観光型集

客施設を整備する「花園インターチェンジ拠点整備プロジェクト」にあわせ、市内観光拠点のネットワーク化を図り、市外・県外からのアウトレットモール来訪者に本市の魅力を伝えるとともに、市内産業の活性化をはじめ、市内に足を運んでもらう仕組みを構築する必要があると考えている。